



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉



人生と書いて“みち”と読む。

“みち”は勿論、道である。

道にもいろいろあるが、例えば誰でも歩いている道路だ。

当たり前の事だが道路は始めからあるものではない。

道路は誰かが作らなければできないものだ。

そして、そのできあがった道路は

その上を多くの人が歩く。

ほとんどの人が始めからそこにあつたかのように、

当たり前前に道路を歩く。

道路の便利さを忘れ、作る人達の事など

全く無関心である。

今回の震災、津波で道路が無くなった時、

初めて世の中の人は気付くのである。

道路の有り難さに。

おそらくこの場合も、時間が経てばほとんどの人が、

その感謝も忘れてしまうだろう。

喉もと過ぎれば熱さ忘れる。

それは誰しもが持っている人間の弱点である。

景気が良く、何も問題が無い時は

人は浮かれて自分の都合の良い事ばかり考える。

しかし、世の中の景気が悪くなったり、天変地異が起こり

多くの人々の命が失われたりした時になって、

ようやく人はいろいろな事を考える。

いつまでも当たり前は無いのだと。

人生という道を様々な困難、苦難で塞がれた時、

改めて道作りを怠っていた事に

多くの人が気付くのではないだろうか。

日本の文化である“道”の付く空手、剣道など武道の

世界にも厳しい精神文化がある。

例えば、「試合に・相手に勝った！段位が上がり免状が

もらえた！」と慢心して満足してしまつたら、

そこで止まってしまうのである。

ここで“できた”と思つてしまつたらそれまでなのだ。

道で止まるのも進むのも自分の心次第。

道の付く世界はどれも奥深く、終わりが無い。

また、人生という道も死ぬまで終わりが無いと思う。

いや、死んだ後も誰かがその道を受け継ぎ、新たな道を

作っていかねばならないはずだ。

個人の進む道もあれば、家族の進む道もある。

会社の進む道もあれば、日本の進む道もある。

人生にも様々な道があるが、

作るなら素晴らしいものにしたいたいものだ。

しかし、それ程甘いものではなく、

苦しい事がほとんどかも知れない。

それでも前向きに立ち向かつて突き進み、

新たな道を切り開いた時、

人は幸せを感じるのではないだろうか。

そしてまた、次の新たに道に挑み、進んでいく。

この連続が人生だ。

面白くないと言つて愚痴らず、

苦しいからと言つて逃げずに、

生きているからこそ道を作ることができるのだ。

生きているからこそ何でもできるのだ。

折れない心を持ち生きている限り“人生”という

素晴らしい道を作り、次の時代に

つないでいこうではないか。

それが生きている者の役目だと思ふ。

希哉